

篠養だより



「夢と希望を抱き 心豊かに たくましく生きる子の育成 ～ 明るく いきいきと ～」
 ◇丹波篠山市立篠山養護学校 ◇丹波篠山市沢田120-1 ◇tel 552-5237 ◇fax 552-6222
 幼稚部1名 小学部20名 中学部11名 高等部13名 計45名 早期発達支援室3名 総計48名 No.17

『卒業』という節目を迎えて! ～次なるステージでの活躍を祈念します!～

3月4日(金)に、高等部第25回卒業証書授与式が終了しました。多くの方の祝福を受け、栄えある5名の生徒が、立派に学び舎を巣立っていきました。

式次第の「巣立ちのことは」の中では、卒業生一人一人が、自分の言葉で、しっかりと感謝の気持ちと次なるステージへの決意を述べました。参列者の視線を浴び、緊張を抱えながらも、18年間に獲得した全ての力を結集し、堂々と精一杯の決意を述べました。

その姿に、『篠養の校章に込められた願い』が重なり、万感の思いでした。初心を忘れず、広がった将来に向かって大きく羽ばたいてほしい! このように、生徒が立派に成長できたのも、保護者、家族の皆様をはじめ、地域、各関係諸機関の皆様のお陰と深く感謝しています。これまでいただいた数々のご厚情に心よりお礼申し上げます。



高等部 第25回『卒業証書授与』

さて、卒業後は、生活の場が「学校」から「地域・社会」へと移ります。それは、生徒たちにとって、新しいステージへの一歩であると同時に、広く長い(人生の大半を過ごす)ステージへの一歩でもあります。今まで以上に『自立』が求められる世界。自分で出来ることはすべて自分でしていかなければなりません。

明るく楽しい未来ばかりが待ち受けているとは限りません。時には、辛く苦しい現実と直面することもあると思います。でも、だからこそ何事にも明るく、元気に、そして、粘り強く取り組んでほしいと願っています。

本校の卒業生が、これからも「地域・社会」で、明るくいきいきと、自分らしく生きて行くことができますよう、引き続きご支援をお願いいたします。

学校においても、生徒の卒業という節目を機に、改めて、地域・社会における『学校の担うべき役割』について、考えなければならないと思っています。

卒業生の皆さん! ～愛校作業【うさぎ小屋のリフォーム】をありがとう!～

卒業生5名が、愛校作業として「うさぎ小屋」のリフォームを行いました。

長い間、雨風にさらされ、かなり色あせていたうさぎ小屋でしたが、丁寧に水色のペンキが塗られ、手づくりの看板も設置され、見違えるように美しくなりました。おまけに、中に住む「ゆめちゃん」と「ゆきちゃん」のネームプレートまでかけてあり、何だかとても温かい気持ちになりました。

今年の卒業生は、飼育美化委員として、普段から「うさぎ」や「金魚」など、校内の生きものの世話をよくしてくれていました。

この小屋を見るたびに、卒業生の皆さんの顔が浮かんできます。

本当に、心のこもった贈り物をありがとう。皆さんの気持ちは、しっかりと受け継いで、いつまでも大切にに使わせてもらいます。



エサを食べる2匹



リフォームが完成した『うさぎ小屋』

『3.11』から11年目の春! ~災害による被害を最小限に抑えるために!~

今年の1.17にはメモリアル集会を開き、27年前に起きた阪神淡路大震災の教訓から、「自分の命を自分で守るにはどうすればよいか。」を学習しました。

3.11から11年目の春。忘れてはならない東北大震災の教訓。それは、釜石の多くの子どもたちを救った『津波てんでんこ』の教えです。

この東北大震災では、千年に一度と言われる超巨大津波によって尊い命が奪われました。その中において「釜石の奇跡」を呼んだのは、『津波てんでんこ』の教えが、釜石の子どもたちの生活に根付いていたからだと言われています。

『津波てんでんこ』とは何か(?)をひとことで言うと、今までに何度も津波被害を受けてきた東北地方に伝わる災害教訓で、津波から逃げる時には、各自がてんでバラバラに逃げろという意味だそうです。

親から子、子から孫へと伝えられてきた教訓を信じて行動に移した釜石の子どもたちの生存率が非常に高かったことを受け、後世「釜石の奇跡」と呼ばれているのです。

学校の授業を通して、子どもたちは多くのことを学びます。でも、その学びを実際に行動に移すとすると、そこには家庭や地域の教えとの重なりが必要になってきます。このような奇跡を生み出したのは、学校での学びが机上の学びに留まらず、生活に根付くまでの真の学びになっていたからです。

ぜひ、このような機会に、ご家庭や地域でも、防災について話題にさせていただけると幸いです。※本校では、東北の復興を願い、全校生が黙祷を捧げました。

※3.11の夕方、偶然にも兵庫県南東部を震源とする地震がありました。もし、被害に遭われたご家庭がありましたら、学校までご連絡ください。



津波が来たら高台へ!

学校運営協議会委員の皆様、一年間お世話になりました!

~併せて「学校関係者評価」へのご協力、ありがとうございました!~

保護者の皆様には、今年度の学校運営に関するアンケートにご協力いただき、ありがとうございました。本校職員が行った「自己評価」の結果と併せ、既にHP上に集計結果を公表していますので、まだ、ご覧になられていない方は是非ともご覧ください。

さて、そもそも『学校評価』とは何か。なぜ行うのか。について、お伝えしておきます。

この『学校評価』は法的に定められたもので、評価結果を学校運営の改善に生かすため、毎年各校において実施されるものです。そして、その結果を広く公表することで、保護者や地域の皆様の理解と信頼に基づく「開かれた学校づくり」に反映しています。

学校評価には、その性格から、各校の教職員が自らの学校運営について評価する「自己評価」と、保護者や地域住民等の学校関係者から構成される組織が自己評価の結果について評価する「学校関係者評価」、そして、学校と直接関係のない専門家等が客観的に評価する「第三者評価」の3つに分類されます。保護者の皆様にご協力いただいたアンケートなどは、その性格上「自己評価」となります。

学校運営協議会の委員の皆様は、以前から学校だよりでもお伝えしている通り、保護者の皆様とはまた異なる立場で学校運営に参画いただいていることから、「学校関係者」として、毎年行われる保護者アンケートや自己評価結果について、ご意見をいただいています。(本校では、これを「学校関係者評価」としています。)

今年度はコロナ禍でもあり、委員の皆様から直接学校運営についてのご意見をお伺いする機会は多く持てませんでしたが、この度、紙面にてご意見・ご提言をいただきました。

裏面に掲載していますので、是非、ご覧ください。

来年度の学校運営に反映できるよう努めて参ります。



学校運営協議会 イメージ図 (文科省)

学校関係者評価より ～貴重なご意見・ご提言をありがとうございました！～

【コロナ禍の学校運営全般について】

(ご意見)

- ① コロナ禍の中、色々工夫されて子どもたちのために日々実践を重ねていただいていることに感謝いたします。学校評価を読ませていただきました。
この間、こんな言葉を聞きました。「どこの偉い先生か知らんが、1日のうちの数時間みて、何で家の子のことがわかるんや。僕はこの子が生まれてきて6年間以上みてるんやで。」と。
この言葉以外にも多くの方が言われます。
「親の気持ちによりそう。生活全体をみる。」等々。なかなかできにくいことだと思います。コロナの関係で生活も不安定なことが多いだけに大変なものだと思います。学校運営協議会も、どこまで学校に踏み込んでいくのか。「難しいなあ。」と感じています。特に、篠養は広域ですから。施設、事業所では虐待ということも増えてきています。権利擁護面でも考えていただければと思います。
- ② 今年度もコロナの状況により、大きく予定が変わることが多かった年になりましたが、その状況下で最大限の取り組みをしていただいたと思います。ありがとうございました。子どもの都合で参加はしていませんが、ささよう発表会はZ o o mで配信していただくなど、コロナ禍の中、保護者は安心して各家庭で観覧できたと思います。
また、後日にDVDの貸し出しもしていただけたので、通常開催では参加ができず観られなかった保護者が観られたのも、とてもよかったと思います。
今後もコロナの終息は見込めないので、子どもたちの安全を第一に、可能な限り工夫をした行事の企画をよろしくお願いします。一年間お世話になりありがとうございました。
- ③ 新型コロナウイルスによる様々な影響がある中、まず、感染予防という面では、非常に気を遣い適切な対応が出来ていたと思いました。行事に関しては、ただ「するか」「しないか」ではなく、「何が出来るか」を考え、その効果を考慮した上での実施が出来ていたと感じました。
地域交流という観点では難しいことがあると思いますが、コミュニケーションは欠かさずに進めただけだと思います。
- ④ 保護者アンケートの「学校や家庭で基本的な生活習慣や生活リズムが身についてきている」について、幼児児童生徒の卒業後、事業所や福祉サービスを利用していく上で重要と考えています。
学校に求められるもの、また家庭に求められるもので、役割も違ってくると思います。難しい部分であると思いますが、今後も引き続き頑張ってください、運営協議会としてもどのような協力ができるか検討できればよいと考えております。
- ⑤ 大変お世話になりありがとうございました。いろいろ意見しましたが、これからも素晴らしい「ささよう」でありますよう祈念します。
- ⑥ コロナで大変だったと思います。協力できず申しわけございませんでした。

(学校より)

まずはご多用の中、また、コロナ禍で学校運営にご参画いただける機会が限られていた中、このように多くのご意見・ご提言をいただきましたことに感謝申し上げます。

ご提言いただいたご意見への十分な回答にはなっていないかもしれませんがご容赦願います。

まずは、①のご意見につきましては、記載のお言葉を真摯に受け止め、常に子どもの実態、保護者に学ぶ謙虚さを忘れることのないよう、日々の教育活動に邁進する所存です。今年度の本校の研究テーマは「一人一人が力を伸ばし、活躍できる授業づくり～実態把握を起点とした指導の充実～」でした。

子どもの実態は、日々成長とともに変化します。いち早くその変化に気づき、適時適切な指導・支援が出来るよう、篠養職員一人一人の専門性の向上及び組織力の向上に全力を注ぎます。

また、『虐待』などといった子どもの「命」や「人権」に関わる課題には、市福祉部局をはじめ、各種関係諸機関や放課後等デイサービス等との繋がりを密にするなど、連携強化に努めます。

③のご意見では、コロナ禍における、地域交流、コミュニケーションの重要性について、ご提言をいただきました。今年度はコロナの影響で、対面による交流は全て中止となりました。感染拡大防止の観点から、安全・安心を最優先した結果、致し方のないことですが、子どもたちにとって、貴重な学びの場が失われたことは事実です。

もちろん、オンラインや手紙等による交流など、出来る範囲での交流は継続してきましたが、対面に勝る交流はないと思っています。

来年度は、コロナの感染状況によっては中止、または延期することも視野に入れつつ、現段階では感染防止対策を講じ、可能な限り対面による交流を実施する方向で準備を進めています。

④のご意見をいただいた委員の方とは、直接お話しをする機会がありました。次のような思いを語っていただきましたので紹介します。

「篠養を卒業した子どもたちは、人生の大半を地域、社会で暮らしていくことになる。例えば、福祉・医療・労働など、それぞれ担う役割は異なるが、もしも、教育（学校）の担う役割が何かと言われたら、それは、「家庭と連携して、子どもたちに基本的な生活習慣や生活リズムを身につけさせること。」になるだろう。子どもたちにとって、学校を卒業してからの人生の方が圧倒的に長い。そう考えたとき、個々の『自立』こそが永遠の課題となってくる。」

お話を聞き、その通りだと思いました。本校においても、長期的な視野に立ち、子どもの『自立』に向けて取組を進めていく必要があると、改めて実感した次第です。貴重なご意見・ご提言を、ありがとうございました。

【コロナ対応(等)についてのご質問】

(ご質問)

①濃厚接触者の定義を教えてください。

(学校より)

以下の、厚生労働省から示されている内容を定義と捉えていますが、判断は総合的に行っています。

「濃厚接触者は、新型コロナウイルスに感染していることが確認された方と近距離で接触、或いは長時間接触し、感染の可能性が相対的に高くなっている方（厚生労働省）」。

よって、濃厚接触かどうかを判断する上で重要な要素は、「距離の近さ」と「時間の長さ」となります。

具体的には、必要な感染予防策をせずに手で触れること、または対面で互いに手を伸ばしたら届く距離（1m程度以内）で15分以上接触があった場合に濃厚接触者になると判断されています。また、新型コロナウイルス感染者から、ウイルスがうつる可能性がある期間に接触のあった方々について、以前は、関係性、接触の程度などについて、保健所が調査を行い、個別に濃厚接触者に該当するかどうかを判断していましたが、現在は保健所や教育委員会、また、校医の助言や指導を踏まえ、総合的に判断しています。

なお、15分間、感染者と至近距離にいたとしても、マスクの有無、会話や歌唱など発声を伴う行動や対面での接触の有無など、「3密」の状況により感染の可能性が大きく異なることから、最終的に濃厚接触者にあたるかどうかは、具体的な状況を総合的に捉えて判断することになっています。

(ご質問)

②バス利用者が安心して利用できるコロナ対策は考えておられますか。

(学校より)

まず第一に、バス利用の有無に関わらず、登校に際しては、各種通知文や緊急メール等でもお伝えしている通り、ご家庭での日々の健康観察を徹底いただきたいということです。

その上で、発熱や倦怠感、喉の違和感などの風邪症状があり、普段と体調が少しでも異なる場合には、自宅での休養を徹底するよう、保護者の皆様に周知徹底を図ります。

そして、バス乗車にあたっては、バス内での「3密」の重なりを防ぐため、引き続き、消毒、マスクの着用、換気の徹底に努めます。特に、換気（窓の開閉）については安全面を考慮しつつ、定期的に行っていきます。加えて、CO₂濃度測定器の設置に向けても準備を進める予定です。

また、マスクの着用については、学校でも指導はしますが、ご家庭にも強く協力を呼びかけていきます。

ただ、学校における感染対策にも限界があります。お互いを尊重しながら、一人一人ができる最大限の取組を進めていけるよう、ご理解と協力をよろしく願います。

(ご質問)

③保護者アンケートの中で、コロナの影響が理由で、十分取り組めなかったことがいくつかあり、これにより評価が下がっている項目について、今後コロナの影響を受けても、教育や交流活動等の質が下がらないような対策を考えていますか。

(学校より)

ご意見をありがとうございます。③のご意見への回答の中でも少し触れましたが、コロナの影響が今後いつまで続くかはわかりませんが、最優先すべきは、子どもの安全・安心であると考えています。よって、活動は制約されるかもしれませんが、その中で出来る最大限の取組を通して、子どもたちに達成感や充実感を味わわせることができるよう、注力して参ります。

具体的には、ここ数年、高等部が行っているオンライン交流や小中学部による手紙等による交流などに、更なる工夫やアイデアを取り入れ、充実を図って参ります。

以上、「学校関係者評価」へのご回答とさせていただきます。なお、この回答について、ご質問やご意見等がございましたら、いつでも結構ですので、篠山養護学校（552-5237）まで、ご連絡ください。是非、お知恵をお借りし、今後の学校運営に反映させていきたいと思っています。